はじめに

近年の我が国の農業経営は、農畜産物の輸入増加などを要因として、ますます厳しさが増してきております。

このような農業環境の下、八千代の農業は、農業従事者の高齢化や後継者不足などの影響を受けながらも比較的に恵まれた自然条件と大消費地に近いという特徴を活かした都市型農業を進めてまいりました。

その重点施策として、平成５年３月に農業振興の中核的施設、また農家と市民が共にふれあい、共に語り合うことができる施設を目指し『やちよふれあいの農業の郷構想』が策定されました。その後、経済状況の低迷の影響を受けながらも同構想に基づき『八千代ふるさとステーション』(道の駅やちよ)が、平成９年度にオープンし、年間８０万人を超えるご利用をいただいております。

このような状況の下、ふるさとステーション対岸の島田地区において水田再基盤整備の事業化に伴って両地区を一体的に捉え、それぞれの機能を明確化した“農業の郷構想”の見直しを行いました。

その内容は、農業を中心とした地場産業の中核施設を整備し、そこを訪れる市民の皆さんが農業体験などを通して、緑豊な環境の中で半日を過ごせる交流空間づくりを目的としております。

本構想の策定にあたりましては、農政審議会委員・ＪＡ八千代市・地元の農家・営農組合から貴重な意見や助言をいただきました。また、数多くの市民の皆さんの声をアンケートという形でお聞きすることもできました。

今後は農家や消費者などで構成する検討組織を設け『郷構想』の具体的な話し合いを進めながら、構想の実現を図ってまいる所存でございます。

平成１７年３月

八千代市長　豊　田　俊　郎